



夢遊金算術の糸

大塚
洋学文庫

重文
洋学文庫
文庫8
A 22
1





上し巻



抑金草山之事由をたつめしむる聖氏
 天皇の昔よの國始を其令を首せしは
 我みらのく小回の那しとて大伴の宿禰
 家持られを加賀し集りてその詠をの
 御代とてつんとあつまを我みらのく
 こころの記とてことごとくしりけしを
 金草山と名なけしなりその略縁記
 ありし山の言を八十餘丈林葉より
 以てはて廻りて十六里八ふ八の谷と

ふい牛にの洞をけしるるを妻の
海といわさやをつうれをよむちれ
あつるをなれこたひ侍て其の勝
をも探しつやと想ひ見夕さるる夢
すししつうとささるる年久しうらなれと
物冠せしはち物さひのためもくも
をさかほぬるは江戸の針もよきとめ
ぬきははをむほ果するつてあつて
あつるぬさうとさその申の秋後志の

新に國入し七給ふ侍るのほつていさ
らやしくしるのこさつとてせとを侍て
父母のあつるあつるふしつれあつ
あつるは親しをあさりあつるあつる
さつる又え侍せし新の名區を
さつるあつてあつるあつるあつて彼
今をあつてあつるあつるあつて彼
の府りあつて後さや九月のあつても
あつるあつてあつるあつてあつるあつて

舊田よりより清田のふるふるよひひ
ゆるゆるしと美ねひをかりぬいさふあめ
清きよかりわささくをりし時一と一はし
ましぬまりあかしの清き電のししきき
再しぬのぬりおよきは合をたまたま
おれさせと服の口をさうあきさうわわ
とあひらくしつをぬの束つと舊田
まあさうあつとすか下といふお宿りよ
しつ衣中より大ぬほおとらちをぬり

ほろみぬぬはゆるもさうほのあなつと
は情しとさらの海乃まをの清き電の
序をさうと誂ぬをりしとさ再し府
りよしとさあぬたしとさの果さし
そのんまりしと神冬のみし戸の合ふ
帰りし後も光陰久のあく今ふとやさそ
のよとしの秋とひをささくしとさ友人
志村弘強のむ訪もをさつとめつとさ
ゆありしとれれ毎の初遠とめゆをさ

まろ濱とらふ新工天^{てん}平の昔國自王^こ敬福^{くわふく}
すもろしとま古語ありとそむ俗のいひに
とくしとままはいといきまていよとまも及
ぬすちとまにけむ目して今を化より
らとま編むせしと作し不徳進よりしと
まやあんとまを物けぬらぬ一政よりなり
よりてましと亦考はたさるすもあやぬ
そのまもまもまもまもまもまもまもまも
つけてしとまその秋を化語とませしとま

思ひもつらいつらいつらいつらいつらいつら
けくしとままはいといきまていよとまも及
ぬすちとまにけむ目して今を化よりしと
まやあんとまを物けぬらぬ一政よりなり
よりてましと亦考はたさるすもあやぬ
そのまもまもまもまもまもまもまもまも
つけてしとまその秋を化語とませしとま

そのまうり集いし面白き事
それとはよく見るとおもしろ
すれうりれくはくこのあうり
つゆそ後年ふのめりし心残り
ていりり集むこといりり

癸酉九月廿六日の夜ふりし
あその申の九月廿六日あうり
あふりり府下の梅坂とあ
今そ花語とせりりりりりり

其の九一の材松某とやん
ししし受ししししししし
あうりすうりのあうりりり
留り指してふりりりりりり
そそそそそそそそそそそ
とらふはさゆの人とらふ
そそそそそそそそそそそ
あうりりりりりりりりり
あうりりりりりりりりり
あうりりりりりりりりり
あうりりりりりりりりり

しつゝ 驛よりあつりしは 往きの小川く水
埒より人のあはれもや いえぬとく
さしよきよきひきくは 驛をよきあつを
ちよえその川そのもさつみをゆしよ
その袖あをちよくしつしよしよ
さゆりつゝ 往きのあつをよきとく
さしよきよきひきくは 驛をよきあつを
ちよえその川そのもさつみをゆしよ
その袖あをちよくしつしよしよ
さゆりつゝ 往きのあつをよきとく

あしとさえんちりけ 往し又ちぬきを傾
らつとくちぬか 崎のまらさつとく
とゆりいよき 崎のまらさつとく
まらさつとく 崎のまらさつとく
あつぬはちとく 崎のまらさつとく
らつとくちぬか 崎のまらさつとく
ぬきとくちぬか 崎のまらさつとく
さしよきよきひきくは 驛をよきあつを
ちよえその川そのもさつみをゆしよ
その袖あをちよくしつしよしよ
さゆりつゝ 往きのあつをよきとく

八
龍俄風烈しく吹せりうらうらう後
場はいそぬはこよなる水き流るを
ししとあひなる流るこころんをこ
ゆれいそをこころ流るこころそ麻股釋
りそをうぬいなるこころ石巻をこ
こころし津いそをんとたをこころ
しにうら後又二名を生しうら
そぬ流るたぬもしこ高浪の舟を
ゆらゆらあゝんぬこころうらと

さうきたる海川後水の後をうら
あゝぬこころぬいぬいぬいぬいぬ
なうらを後るもあゝんぬ申別の中
石の舟をうらぬいぬいぬいぬいぬ
舟木葉許をうらぬいぬいぬいぬいぬ
を流る合をうらぬいぬいぬいぬいぬ
あとの川水の舟をうらぬいぬいぬいぬ
ぬしやうそ風あゝぬいぬいぬいぬいぬ
合を流る舟をうらぬいぬいぬいぬいぬ

ろく不ふれいとしも徳なる魚しとて
すゆらうりい北へくさるる南へてちよの
日よりとてえんたまうししつらうりいよひ
ふ物新しとてあふもしとて團圓をといふ
さあふらとていなりそを名に本もてとて
これと指さし海食らうとて食して又いふ
あけつらうりいとまうりまひ土地の勝景は
一見し程合はる海海のちよも船人
らとてうりいとてとていひまうりいしと

されとこれとてくさるる南へてちよの
ゆえ日よりとてまうりもあけつらうりいと
よ魚しけ川のちよをうりい波てあけ合
はるるいこの道きうとてさうりいしこの
麻山麓山とていふ法しとていふちよあふ
ちよあふらしとて地もよ魚けれいとてさうり
合とて地ぬしとていふちよあふらとてさうり
ちよあふらとていふちよあふらとてさうり
りくちよあふらとていふちよあふらとてさうり

んぞぬしこりしのとてなりしは碓を
せよぬしこりしとてなりしは碓を
あつぬしこりしとてなりしは碓を
たひの世にひしとてなりしは碓を
南所の羽衣ひしとてなりしは碓を
詠め神の詠ひしとてなりしは碓を
かきぬは一目よしとてなりしは碓を
をて山海の佳きとてなりしは碓を
らぬとてなりしとてなりしは碓を

よりあつぬしこりしとてなりしは碓を
いしとてなりしとてなりしは碓を
新よぬしこりしとてなりしは碓を
海をぬしこりしとてなりしは碓を
言をぬしこりしとてなりしは碓を
又しとてなりしとてなりしは碓を
たよしとてなりしとてなりしは碓を
てしとてなりしとてなりしは碓を
海をぬしこりしとてなりしは碓を

日よ大難ひなし 後海必よらしとんと
ゆめ家なれをさしと 地しとけさ
きおしちてしは 後波まるといひ
しとらつさる 後まやぬ 因縁ありてや
今幸の神のか護あり 後まの 後
るまよのまゆしとこと 不忠 後まよ又か
こつりきり 後まよとこと 不忠 後まよ
やそそ 木村をとりつ 後まよとこと 不忠 後まよ
能川とつし 後まよとこと 不忠 後まよ

られしと 国やとよの人しと 不忠 後まよ
ゆし 別れをさしと 地しとけさ
たりは 後まよとこと 不忠 後まよ
より 能見 後まよとこと 不忠 後まよ
つとみ 後まよとこと 不忠 後まよ
入いの 後まよとこと 不忠 後まよ
又たり 後まよとこと 不忠 後まよ
向の 後まよとこと 不忠 後まよ

この海船をいつと斗流せと云ふは
あらうらよ船の可るを流すまじき
流すく山と云ふとさるる漕舟程
山く流すのけいひさむもけいひは
何せ海けつつき石巖の程年なり
まをくまをぬきありと云ふは
ありた名は山ありともえを鬼を
りつるは海のとまりとて凡そあり
押と山とを圍つたふ海村のふと

又之流すは山竹流すは斗流すのま
拾流極の浦月の浦侍流す秋の流すは
流すの流す舟の流すはつね流す麻呂
米浦小細念大京給流す小洲十八成
今んま船人のとしとを云ふめたり流
船のつとくうまこくま漕舟もはれ
それの中も船を釣船もんまうら
みきりよ向の海やうらうらええし
田流網代も流のまをぬきあり

きいの高く浦とよびて針舟の底
高き浦は十八ヶ年ありていふぬ船川を
のぞくえあらんとおもふは川のいさ
今も舟の底のあつちをいふは
くくくくくくくくくくくくくくくく
いしはくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
形とくくくくくくくくくくくく
揚めくくくくくくくくくくくく

あらうまのうらのおくくくくくく
ゆくの船川をくくくくくくくく
まて九里の海程をくくくくくく
午のうらとくくくくくくくく
あつちをくくくくくくくくくく
そくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
山と越れくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

そのよのいえは後を掃くも彼も
河に後を掃くも彼も
あはれ船にうきうきと
風波ありし船ありしうきうきと後を掃く
合をうきうきと後を掃く
船にうきうきと後を掃く
後を掃く船にうきうきと
つと合をうきうきと後を掃く
と後を掃く船にうきうきと

と後を掃く船にうきうきと
掃くも彼も船にうきうきと
しと後を掃く船にうきうきと
船にうきうきと後を掃く
しと後を掃く船にうきうきと
も彼も船にうきうきと
と後を掃く船にうきうきと
かり船にうきうきと後を掃く
あはれ船にうきうきと

善いし目の世に愛おしむにあら
らぬ心持をいふにあらぬ
もやうに後とよむとせむと
しして異しむるも一人と
われはひらりひらりこの
隆経の心は目より入る
こゝしとや後と持あらし
と見えされは彼をあら
とくもくもせうれと九
廻の心持

そつちりあつちりし
持あらしとせむと
はあらしとせむと
くれはるる後と持あらし
船のええ後と持あらし
たらしとせむとせむと
はあらしとせむとせむと
はあらしとせむとせむと
はあらしとせむとせむと
はあらしとせむとせむと

梅より重くもあはれにふかぬといふものも
あつりしつゝ後にはせんはつとせはつと
そめふらふ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて
あつりしつゝ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて
あつりしつゝ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて

すゝめしつゝ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて
あつりしつゝ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて
あつりしつゝ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて
あつりしつゝ南無と建てる大徳をた
けを擧ぐの前はより守のめよと毎に
願ふくくしんを列す足つをくあはれ
この乃しとと行ふよ守候も近ひて

らんも各教よるむりいづいんと
謝せしむと心成りし人まはるし
退帳なれども水晶石よるといひ
こやくあるの人とれとれ離
人十二と申す。紙巻と一ツ布の
高し。あつんどとてあつり
門定とらあま先孕とて足
天社。治てぬつて折出山日
右橋の宿物として辨才天（いんぎん）の
一

そりて今んふとる。本社を遷す
とてあつり。折出山の紙よ
秋。信。あつり。あつり。あつり。あつり
とてあつり。折出山の紙よ
とて

